

川へ行こう

- 教師用ガイドブック -

はじめに

- ・この単元では、川に関する問題（環境・健康）を子供たちが、どれだけ自分から見つけられるかが重要になってきます。従って、教師側は課題が広がりすぎないように注意し子供たちの視点を大切にしましょう。
- ・Step1 及び Step2 では、川での活動が中心になります。水はもちろんのこと地域に応じて生物や植物にも注意させ事故のないように留意してください。
- ・Step2 でインタビューをする場合は、インタビュー時のマナーなど子供たちへの事前指導に十分配慮するようにしてください。
- ・Step4 でテレビ会議を計画する場合は、交流する学校と事前に十分打ち合わせをしておきましょう。

各ステップにおける留意点

ステップ1 川探検をしよう（3時間）

学校の近くの川を探検する。

- ・川に関する問題（環境・健康）を子供たちが、どれだけ自分から見つけられるかが重要になってきます。従って、教師側は課題が広がりすぎないように注意し子供たちの視点を大切にしましょう。
- ・川での活動の際には、必ず下見をし、危険性を把握しておくようにしましょう。（天候によって危険性は、変化することも忘れないようにしましょう。）
- ・動物、植物、地形、建築物などに視点を向けるようにしておくとうい

クラスみんなで紹介しあう。（1時間）

- ・見つけたものの仲間分けをみんなで見つけたものの紹介をしあうときに板書等で分けていくようにすると、これからの学習の視点がはっきりして学習が進めやすい。
- ・紹介しあう中で画像やスケッチがすぐに大きく表示できるようにOHCやモニター等は用意しておくとうい。

ステップ2 川を調べよう（8時間）

自分の課題を決め、調査活動の計画を立てる。（1時間）

- ・自分が見つけた物や友だちの発表の中から課題を見つけ計画を立てさせる。
- ・調査方法等についてわからない児童については適切なアドバイスを与える。

計画に基づいて調査活動をする。（5時間）

- ・調査地の川の水量等を確認しておき、安全を確認しておく。
- ・実際に魚を捕る場合、地域の水利権にふれないかどうか事前に確認し、許可をもらっておく。
- ・聞き取り調査に協力してもらえる人には事前に依頼しておく
- ・川の調査活動では複数の場所で同じ調査をすることがデータの信頼性があがることを

指導しておくといよい。

調査結果をまとめる。(2時間)

- ・自分の最初にたてた課題にそってまとめているかを意識させることがよい。
- ・表現方法は、画用紙・模造紙からホームページまで多様に考えられます。同じ表現方法を押しつけることのないように子どもたちの選択に任せましょう。

ステップ3 川マップを作ろう(4時間)

自分の課題に沿って調べたことをクラスみんなに紹介する(2時間)

- ・予め子どもたちの発表内容や発表方法を把握し効果的な発表ができるように、机、椅子の配置や器材の準備をしておきましょう。

みんなが調べたことを1つの地図(流域図)にまとめる。(2時間)

- ・子どもたちの調査活動範囲をカバーした地図を用意しておきます。地図の上にアクリル版をのせるなど書き直しや張り付けが簡単にできるように工夫しましょう。
- ・遠隔共同学習支援ツール(I-Note)を使用する場合は、校区地図などを予め張り付けておきましょう。

ステップ4 川の未来を考えよう(5時間)

流域の学校と調査結果を交流する(3時間)

- ・交流相手校との交流の趣旨や日程は事前に打ち合わせしておく。
- ・テレビ会議で交流する場合は、教師側ですべて決めてしまうのではなく、できるだけ子どもたちを参加させましょう。
- ・自分たちの伝えたいことや相手が伝えようとしていることを理解していくことを指導しながら、比較検討し意見や質問をすることによってさらに交流が深まることを指導していくといよい。

自分たちが作った川マップや流域の学校との交流から、川の環境について考える。(2時間)

- ・どんな川にしたいか、そのためには自分たちに何ができるのかを考え、自分の生活にかえるようなまとめ方をするとよい。